

図書館だより



京都市立九条中学校

図書館

令和6年度 12月号



残すところ2週間余りで、令和6年（2024年）が終わろうとしています。世界各地で続く戦争や政情不安、新型コロナウイルスをはじめとした多様な感染症の流行も気がかりなまま、師走となってしまいました。世界情勢の厳しさや病気と無縁ではいられませんが、温かいお家の中で命や平和の尊さを改めて感じながら、有意義な年末年始を過ごしてください。



『4.1』この数値は何を指すでしょう？



単位は冊。実は、全国の中学生が2024年の5月、その一か月で読んだ本の平均冊数を指すのです。（ちなみに、小学生の平均は『13.8冊』。2024年6月 全国学校図書館協議会による調査）あなたはこれ以上ですか？それとも0冊！？優劣をつけるわけではありませんが、読書ができる恵まれた環境を活かしたいですね。

★脳のつながりが強化され、記憶力や集中力が向上する

★心身のストレスレベルを低下させる

という研究結果も出ています。

（※図書館からのおすすめ本：池井戸潤著「俺たちの箱根駅伝」→）

受験（受検）を控えた3年生であっても、リラックスや気分転換ができて脳の働きも向上するなら、読書をしないのはもったいないですね。また、読書が習慣化されていない人は、短いニュースを読んだり、映画やドラマの原作本を読んだり、手近なところから始めてみてください。家の中で過ごす時間が増えがちな冬を、読書で過ごしてみましよう。買うのはためらいがある、公共図書館に行くのはおっくうだ、という人は学校の図書館を利用してくださいね。



冬のお供になる本を選びに、ぜひ図書館へ♪

『お知らせ』

12月19日（木）に学級文庫を回収します。教養委員さんに協力して全冊返しましょう！



図書館を活用した授業を紹介します

12月5日(木) 2年生社会科の授業で『元禄文化・化政文化』について調べ学習を行いました。本校に所蔵している関連本だけでなく、南図書館の団体貸出を利用した40冊を参考資料に加えての学習です。(南図書館のみで充足できず、京都市中の図書館から集めていただきました！ありがたいことです。ちなみに、A先生とN先生が本を運んでくださいました。)



- 本から情報を得るための説明を司書がした後、熱心に本を選んでいました。「これは元禄？化政？」「浄瑠璃も入る？」など、互いに尋ね合いながら和やかに進める光景が見られました。
- 目次や見出しをヒントにして効率よくワークシートに記入する人がいる一方、選書に時間がかかってしまう人や、必要な箇所が見つけれない人、情報を書き切れないと困っている人など、個人差は見られましたが、限られた時間の中で集中して取り組む姿がありました。
- 本の奥付などを参考にして、著者についてもしっかりと調べてメモを取っていました。
- 「戦がなくなって経済が安定したり生活に余裕ができたりしたから、趣味や娯楽に目を向けられたんや。」「だからこそ、文化が発展するんやな。」本で情報を得ながら会話をするグループもありました。『対話的で深い学び』の姿です。
- 授業後に机上のけしカスを集めたり、椅子を整えてくれたり、周りをよく見て後片付けを自ら行う様子もすてきでした。



時間が足りず『いいところ』(ペースや要領がわかり、もっとも集中して取り組んでいる最中)で終わってしまったことが残念ですが、この授業が入口となって今後の学習の深化や発展につながるよう願います。調べ学習のまとめとなるパワーポイントがどのような仕上がりになるのかとても楽しみです。**図書館には【探究型の学び】に役立つヒントがたくさんあります。**読書以外にもぜひ活用してください。

新しい教養委員長さんに聞いてみました



- *お気に入りの本は？…『ぼくとおばけの羊の夏休み』
- *おすすめの本は？…石川直樹著『いま生きているという冒険』
- *本を読んだり調べたりして役立ったことは？…授業中に正確な情報を知れたことです。
- *どのような図書館にしたい？…みんなが安心してすごせる場所にしたいです。
- *みんなに一言…よろしくお願いします！みなさんに本を読む大切さを知ってもらえるようにがんばります！

委員長さんを先頭に活発な委員会活動を！そして、より良い図書館を作っていきます。